

中学校外国語科における フォニックス指導についての考察 — 文部科学省検定済教科書の分析 —

A Study on the Phonics Instruction in Japanese Junior High Schools: Analysis of English Textbooks Authorized by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

上原 明子

KAMBARU Akiko

抄録

本稿では、中学校学習指導要領におけるフォニックスの取り扱いを明確にし、中学校におけるフォニックス指導の現状や実践事例、これまでの文部科学省検定済教科書における取り扱いについての先行研究を整理した。そこでは、中学校におけるフォニックス指導には教師間でばらつきがあることや、教科書が体系的にフォニックス指導を行うことができる構成にはなっていないことが明らかになった。2020年度には、小学校5、6年生に外国語科が導入され、フォニックスに関する内容として「音声と文字とを関連付ける指導」が行われることになった。そこで、新しく改訂された2021年度版の中学校外国語科用文部科学省検定済教科書におけるフォニックスに関する内容について調査を行った。その結果、以前よりフォニックスに関する記述が増えた教科書があるものの、フォニックスのルールに気付かせる活動や定着させる活動を設定しているものは少なく、取り扱っているフォニックスのルールの種類にも教科書ごとにばらつきがあることがわかった。また、どの教科書もすでに単語や文の読み書きが始まった後に、指導が行われる構成になっていた。つまり、どの教科書もフォニックスの基本的なルールを早い段階で系統的に学習できる構成にはなっていないことが明らかになった。

キーワード：フォニックス, 教科書, 中学校, 外国語科

1 フォニックスとは

フォニックスとは、英語圏の国語教育において実践されている読み方指導のひとつであり、音（音素）と文字（書記素）の対応関係を教える指導法である（ハイルマン・松香, 1981）。仮名のように文字の名称と発音が一対一対応である日本語とは異なり、英語は、音素と書記素の対応が不透明な言語のひとつであり、26文字のアルファベットで44種類

の音を作り出している。英語は母語話者にとっても読み書きの習得が比較的難しい言語であり、読み書き障がいの発現率は5.3%~11.8% (Katusic, Colligan, Barbaresi, Schaid, & Jacobsen, 2001) と高い。したがって、音 (音素) と文字 (書記素) の対応関係を1つ1つ丁寧に指導する必要があるのである。

松香 (2008) は、基本のフォニックスルールとして「アルファベットの音読み (Phonics Alphabet)」、 「eのついた母音 (Silent e)」、 「礼儀正しい母音 (Polite Vowels)」、 「2文字子音 (Consonant Digraphs)」、 「2文字母音 (Vowel Digraphs)」、 「連続子音 (Consonant Blends)」、 「rのついた母音 (Murmuring Vowels)」 の7つを紹介した。「eのついた母音 (Silent e)」とは、母音字+子音字1つ+eの場合、最後の「e」は、その前の母音字をアルファベットの名称読みに変え、「e」自体は発音しないというルールである。最後の「e」が前の母音字をアルファベットの名称読みに変える魔法の力があるので「Magic e」と呼ばれることもある。例えば、name, eve, time, note, cute などである。「礼儀正しい母音 (Polite Vowels)」とは、母音字が2つ並んでいる時、1番目の母音字をアルファベットの名称読みにして、2番目の母音字は読まないというルールである。rain, May, eat, meet, key, pie, boat, snow, blue, suit などがある。「2文字子音 (Consonant Digraphs)」は、2つの子音字の組み合わせで新しい1音になるというルールである。shop, chime, phone, whale, math, this, ticket, long などがある。「2文字母音 (Vowel Digraphs)」は、2つの母音字の組み合わせで新しい1音になるというルールである。moon, book, sound, town, coin, toy, August, draw などがある。「連続子音 Consonant Blends」は、2つまたは3つの子音字が連続したときに、それぞれが元の音を残しながら混ざり合った音になるというルールである。skin, black, three, spring, strong などがある。「rのついた母音 (Murmuring Vowels)」は、母音に「r」が付くと、うめくような1音になるというルールである。park, short, girl, chair, year, work などがある。

フォニックスは Analytic Phonics と Synthetic Phonics の2つに大きく分類される (山下, 2015)。Analytic Phonics は、例えば cat, cup などの最初の文字を切り取って /k/ と発音する方法で、英単語とその綴り、そしてその音を発音できることが前提にある (入山・加藤・渡辺・山下, 2019)。Synthetic Phonics は、単語の習得に関係なく文字と音声の対応を指導し、一つの文字を指導したらすぐに既習の文字と組み合わせて読み書きができるようにする方法である (湯澤・山下, 2015)。英国の教育科学省 (現教育省) は、2006年に Rose Report を提示し、フォニックスを Synthetic Phonics で指導するように推奨した (湯澤・山下, 2015)。

「ジョリーフォニックス」は、Synthetic Phonics の教材である。イギリスの学校の68% (2005年調査) で使用され、世界120か国以上で導入されている (ジョリーラーニング社, 2017)。「ジョリーフォニックス」では、第1段階で42の英語の音を1つずつ学び、Blending (1つ1つの文字の音をくっつけて単語をつくること) と Segmenting (単語に含まれる1つ1つの音を識別し分解すること) を繰り返す。第1段階で学ぶ42の音は頻出順に、7つのグループに分けて指導される。第1グループは s, a, t, i, p, n, 第2グループは c/k, e, h, r, m, d, 第3グループは g, o, u, l, f, b, 第4グループは ai, j, oa, ie, ee, or, 第5グループは z, w, ng, v, oo, oo, 第6グループは y, x, ch, sh, th, th, 第7グループは qu, ou, oi, ue, er, ar である (山下, 2015)。第2段階や第3段階では、「eのついた母音 (Silent

e)」を含む Alternative Spellings (同音異綴り) や Tricky Words (フォニックスのルールに沿っていない単語) を学ぶ。英語の綴りと発音の間には75%以上の規則性があるが (Crystal, 1990), フォニックスのルールに沿っていない単語は日常で使用する身近な単語に多く, それらについては見たままに綴りを覚えるという方法をとる。したがって Tricky Words は, アメリカでは主に Sight Words と呼ばれる。また, 「ジョリーフォニックス」は, 視覚 (Visual), 聴覚 (Auditory), 動作 (Kinaesthetic), 触覚 (Tactile) 等を使った多感覚法 (Multisensory Approach) を採用していることが特徴である。山下 (2015) によれば, 現在日本で指導されているフォニックスは, ある程度子どもが英単語と発音を知っていることが前提になっているが, 英語の文字と音を知らない子どもたちでも習得でき, 多感覚法 (Multisensory Approach) を用いている「ジョリーフォニックス」は, 英語を母語としない子どもや特別の支援を必要とする子どもにもやさしいプログラムである。

2 学習指導要領におけるフォニックスの取り扱い

学習指導要領にフォニックスに関する記述が初めて登場したのは, 2008年告示の『中学校学習指導要領』である。「発音と綴りとを関連付けて指導すること」と記述された。『中学校学習指導要領解説外国語編』(文部科学省, 2008) には, 「小学校で play /pleɪ/ や thank /θæŋk/ などの音声に触れたあと, 中学校では文字でどのように表すかを学ぶこととなるが, その両者を関連付けて指導することで, 発音と綴りの関係に気付かせることが大切である」(文部科学省, 2008, p. 45) とだけ書かれており, 具体的な指導内容や手順等は示されていない。「play /pleɪ/」や「thank /θæŋk/」という「礼儀正しい母音 (Polite Vowels)」や「2文字子音 (Consonant Digraphs)」, 「連続子音 (Consonant Blends)」のルールが含まれる単語が例として出されていることから, それらのルールの指導を行うのかとも考えられるが, 単語の綴りをただ黙って覚えさせるのではなく, 発音と一緒に指導するということを意味しているようにも受け取れ, 様々な解釈が可能である。村上 (2015) は, 学習指導要領に英語圏のフォニックスに相当するような指導法に関する記述はされていないため, 指導は教員の裁量に任されており, 伝統的にフラッシュカードなどを用いた単語全体を暗記する指導法が主に用いられていると述べている。また, 日本では, アルファベット指導を数回行ったのち, すぐに単語や文全体の読み書きが始まるため, 日本の学習者は暗記以外の単語学習方法がない状態であると考えられると述べている。

2020年度に, 小学校5, 6年生に外国語科が導入され, 「読むこと」の領域で, 「活字体で書かれた文字を識別し, その読み方を発音すること」や「言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むこと」が示された (文部科学省, 2018a)。そして, 推測して読む手掛かりとなるように, 英語の文字には名称以外に音があり, 例えば, 「a や c という文字は, /eɪ/ や /si:/ という名称があると同時に, 語の中では /æ/ (例: bag, apple) や /eɪ/ (例: station, brave), /s/ (例: circle, city) や /k/ (例: cap, music) という音をもっている」(文部科学省, 2018a, p. 78) ことを, 小学校において指導することと解説されている。また, 中学校で「発音と綴りとを関連付けて指導すること」に留意し, 小学校では「音声と文字とを関連付ける指導」に留めることとされている (文部科学省, 2018a)。これらの記述は, 小学校で何を指導すべきかがわかる書き方になっている。山

本(2019)は、小学校では、1文字1音の対応と、単語の初頭の文字を中心に扱うことと考えられると述べている。

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編』(文部科学省, 2018b)には、引き続き「発音と綴りとを関連付けて指導すること」(p. 123)とあり、「例外はあるものの、英語の発音と綴りには、基本的な対応関係がある。こうした対応関係については、ある程度単語の綴りとその発音になじんだところで、単純なものから徐々に指導していくこととする」(p. 92)と書かれている。前回同様、具体的な指導内容や手順等は示されていないため、何をどこまで、どのように指導するのがはっきりしない。また、「ある程度単語の綴りとその発音になじんだところで、単純なものから徐々に指導していく」と書かれていることから、すでに単語の綴りがわかり発音できる状態でフォニックス指導を行うことを想定していることがわかる。

3 中学校におけるフォニックス指導の現状

小学校におけるフォニックス指導を提言する論考は多い(野呂, 2004; 君塚・西尾・田中, 2010; 渋谷, 2011; 尾上, 2016; 平野, 2016; 中内田・大嶋, 2017)。また、実践報告も数多くあり(東, 2006; 北條・大田, 2009; 北條・君, 2010; 北條・君, 2011; 北條・矢嶋, 高橋, 2012; 檜本, 2017; 木澤, 2018; 長田・赤井, 2019; 加藤・入山・山下・渡邊, 2020)、いずれも小学校におけるフォニックス指導の効果を報告している。しかし、2008年告示の学習指導要領以来、発音と綴りの関係を指導することが明記されているのは中学校である。中学校におけるフォニックス指導はどのように行われているのであろうか。

東(2006)は、品川区内の公立中学校18校を対象にしたアンケートを実施したところ、中学校でのフォニックス指導の年間授業時数は、「20～30時間」が15%、「10～20時間」が15%、「4～6時間」が12%、「2～3時間」が19%、「していない」が38%であったことから、「中学校でのフォニックス指導は、英語科教員の自由裁量であり、その実施状況にもばらつきがある」(p. 107)と述べている。また、Takeda(2005)は、多くの公立中学校の教師はフォニックスの知識をほとんど持っていないと述べている。全国の中学校・高校の校長および英語教員5087名からの回答をまとめた報告「中高の英語指導に関する実態調査2015」(ベネッセ教育総合研究所, 2016)によると、「発音と綴りとの関係付け」を「よく行う」中学校教員は25.0%、「ときどき行う」中学校教員は43.9%であった。2008年告示以降は、学習指導要領に記載があるのであるから、当然指導されるべきであるが、フォニックス指導は必ずしもすべての中学校で行われているわけではないことがわかる。

吉田・鄭(2012)は、2011年に、大阪教育大学の「オーラルコミュニケーション」を履修する1年生34名に対する調査を行った。「フォニックスを習ったことがありますか」という質問に「はい」と回答した学生は47%であった。「フォニックス」を学習した経験は少ないことがわかる。小原(2016)は、2013年に関東近県の私立大学1年生48名に過去のフォニックス指導について調査した。その結果、約70%の学生は、フォニックスということばを「あまり聞かない」「聞かない」と回答したという。また、フォニックスで読みの指導を受けた学生は35%程度であったことから、中学や高校ではあまりフォニックスの指導が行われていないことがわかるとしている。中内田・大嶋(2017)は、滋賀大学で教養英語の履修者99名にフォニックスの授業を行った。アンケートでは、「この授業を受ける前にフォ

ニックスを学習したことはありますか」の質問に「はい」と回答した学生は、小学校教諭志望者で6%、その他の学生で19%であった。ほとんどの学生がフォニックスを学習したことがないことがわかった。矢野（2018）は、2016年に、国立大学の学生115名に「Magic e」の知識の有無を問うたところ、54名が「知っていた」、61名が「今知った」と回答したという。矢野は、1999年にも同様の質問紙調査を行っており、59.0%の大学生が「Magic e」を「初めて知った」と回答したことを振り返り、17年の年月が流れても5割から6割の大学生が、このフォニックスの基本的なルールを、大学入学以前に学習してこなかったことが明らかになったと驚きをもって伝えている。檜本（2020）は、2018年度後期に、英語教育専攻以外の学部生150名について、中学校においてフォニックスを指導されたものは少ないという理由でフォニックス指導を行った。

筆者は、2021年7月に、公立大学の小学校教員養成系学科の学生で必修科目「外国語科指導法」を履修した101名を対象に調査を行った。ほとんどが大学2年生で、中学生時代は2014年～2016年にあたる。つまり、2008年告示の中学校学習指導要領に「発音と綴りとを関連付けて指導すること」が位置付けられ、小学校学習指導要領にはまだ「音声と文字とを関連付ける指導」が位置付けられていなかった時代の中学生である。調査は、「アルファベットの音読み」、「eのついた母音」、「礼儀正しい母音」、「2文字子音」、「2文字母音」、「連続子音」、「rのついた母音」のフォニックスのルールを、該当する単語を2つずつ提示して説明した後、それぞれのルールについて、「1 小学校で習った」、「2 中学校で習った」、「3 高校で習った」、「4 学校以外（塾や家庭等）で習った」、「5 大学で習った」、「6 自分で気付いたが習っていない」、「7 知らなかった」、「8 その他」のうち当てはまる番号を記述してもらった。その結果をまとめたのが表1である。数字は人数、括弧内の数字は%である。

表1 大学生へのフォニックス学習調査（「外国語科指導法」履修者）

	小学校	中学校	高校	学校 以外	大学	自分で気 付いた	知らな かった	他
アルファベッ トの音読み	23 (22.8)	31 (30.7)	4 (4.0)	14 (13.9)	22 (21.8)	6 (5.9)	0 (0.0)	1 (1.0)
eのついた母 音	0 (0.0)	12 (11.9)	15 (14.9)	22 (21.8)	7 (6.9)	17 (16.8)	27 (26.7)	1 (1.0)
礼儀正しい 母音	0 (0.0)	20 (19.8)	11 (10.9)	18 (17.8)	8 (7.9)	21 (20.8)	23 (22.8)	0 (0.0)
2文字子音	2 (2.0)	2 (2.0)	14 (13.9)	13 (12.8)	5 (5.0)	20 (19.8)	18 (17.8)	0 (0.0)
2文字母音	1 (1.0)	19 (18.8)	18 (17.8)	9 (8.9)	7 (6.9)	29 (28.7)	16 (15.8)	2 (2.0)
連続子音	2 (2.0)	12 (11.9)	8 (7.9)	11 (10.9)	7 (6.9)	23 (22.8)	38 (37.6)	0 (0.0)
rのついた 母音	1 (1.0)	18 (17.8)	13 (12.9)	13 (12.9)	6 (5.9)	31 (30.7)	18 (17.8)	1 (1.0)

あくまで自己申告ではあるものの、中学校で必ずしもフォニックスのルールを学んだわけではないことがわかる。「高校」という回答には大学受験に備えて説明を聞いたという回答が多かった。「学校以外」という回答には、塾で学んだという回答が多かった。「大学」、「自分で気付いた」、「知らなかった」と回答した学生は、単語の綴りの丸暗記に頼っていたことになる。「自分で気付いた」というのは、大量の単語の綴りを覚えた後で規則性に気付いたということである。自由記述で多かった回答として、「学校でルールを教えてもらったことはない」、「習ったと思うが、ルールをはっきり覚えていないので習得できていない」、「学校間や教師間でばらつきがあるのはよくない」、「もっと早く学びたかった」「新出単語を習うときに発音の説明を受けた」、「発音練習の時に説明された」がある。最後の2つの回答から、読み書きがスムーズにできるようになるためというより、英語らしい発音の指導としてフォニックスが活用されている面があることがわかる。

さらに、同大学で同時期に、「英語発音・フォニックス」を履修した22名を対象に同じ調査を行った結果を表2に示す。「英語発音・フォニックス」は選択科目なので、比較的英語に興味のある学生が履修していると考えられる。

表2 大学生へのフォニックス学習調査（「英語発音・フォニックス」履修者）

	小学校	中学校	高校	学校 以外	大学	自分で気 付いた	知らな かった	他
アルファベットの音読み	3 (13.6)	5 (22.7)	1 (4.5)	6 (27.2)	5 (22.7)	2 (9.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
eのついた母音	0 (0.0)	3 (13.6)	1 (4.5)	2 (9.0)	14 (63.6)	2 (9.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
礼儀正しい母音	0 (0.0)	2 (9.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	17 (77.2)	2 (9.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2文字子音	0 (0.0)	4 (18.1)	0 (0.0)	2 (9.0)	15 (68.1)	1 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
2文字母音	0 (0.0)	4 (18.1)	0 (0.0)	1 (4.5)	15 (68.1)	2 (9.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
連続子音	0 (0.0)	2 (9.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	17 (77.2)	2 (9.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
rのついた母音	0 (0.0)	2 (9.0)	0 (0.0)	2 (9.0)	16 (72.7)	2 (9.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表1と比べて特徴的なことは、「大学」と回答した学生が多いことである。「英語発音・フォニックス」の授業では、1つ1つのフォニックスのルールを丁寧に指導した。そのことにより、「英語発音・フォニックス」の履修者は、大学で詳しい知識を得たがために、「大学」ではじめて学んだと回答したのかもしれない。一方、「英語発音・フォニックス」を履修していない学生は、何となく習った気がするという程度でも「習った」と回答したのかもしれない。「英語発音・フォニックス」履修者の自由記述には、フォニックスについて「初めて知ることばかりだった」、「初めて詳しく学んだ」、「たくさんのルールがあって驚きばかりだった」、「細かに教えられたことがなかったのでショックを受けることが多かった」、

「もっと早く習う機会があればよかった」、「早い段階で知りたかった」、「この授業で習うまで綴りを丸覚えして大変だった」等があった。これらの調査から言えることは、2008年告示の『中学校学習指導要領』に「発音と綴りとを関連付けて指導すること」と記述されて以降も、読み書き指導のはじめの段階で系統的で丁寧なフォニックス指導は十分に行われていないということである。

前述した「中高の英語指導に関する実態調査2015」(ベネッセ教育総合研究所, 2016)によると、中学生が「英語に対して苦手意識やつまずき」を感じる原因として教員が挙げた11項目で「とてもあてはまる」と答えた教員の割合が最も高かったのは、「単語(発音・綴り・意味)を覚えるのが苦手」という回答だった(60.9%)。1つ1つの単語を正しく読んだり綴ったりする大変さが、中学生の英語学習を困難にしていると考えられる。山下(2015)は、フォニックスが十分指導されていない現状では、生徒は綴りの丸暗記を強いられていることになると述べている。Takeda(2005)によると、そのことが原因で多くの生徒が読み書きの困難に遭遇し、英語学習へのやる気や興味を無くしているという。また、1つ1つの音素を理解せず単語の綴りを丸覚えすることで、単語全体の音を日本語の音に置き換えるためカタカナ発音になってしまう。君塚・西尾・田中(2010)は、中学校英語教師が積極的に授業でフォニックスを活用するまでには至っていない理由として、教師自身がフォニックスで学習した経験がないことや、年間指導計画の中にどのようにフォニックスを取り入れていけばよいのかわからないことを挙げている。

4 中学校におけるフォニックス指導の実践事例

Takeda(2006)は、2002年に、愛媛県内の公立中学校1年生、2年生、3年生に6か月間、「アルファベットの音読み(Phonics Alphabet)」、「eのついた母音(Silent e)」、「礼儀正しい母音(Polite Vowels)」、「21の組み合わせ文字」のフォニックス指導を行った。通常授業のはじめの10分をフォニックス指導に当て、自作のテキストブックを使用し4月から11月まで行った。その結果、すべての学年の生徒の英語を読み書きする技能が向上したことが確認され、英語学習に対する意欲の高揚にもつながったことが分かった。特に1年生において大きな効果が見られた。堀江・園元(2017)は、2016年1学期に、私立中学校の中学1年生を対象に「eのついた母音(Silent e)」(15分×6回)、「礼儀正しい母音(Polite Vowels)」(15分×5回)、「2文字子音(Consonant Digraphs)」(15分×3回)、「2文字母音(Vowel Digraphs)」(15分×4回)のフォニックス指導を帯活動で行った。テキストとして『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 1, 2』(松香, 1988a, 1988b)を使用した。生徒たちは、フォニックスの授業を受けることで、単語を正確に読めるようになったと報告している。小田・湯澤(2019)は、2018年11月から12月にかけて1回50分全5回の指導を行った。指導は「ジョリーフォニックス」に基づき、音と文字の対応の学習、発音の練習、音素同士のBlendingの練習という3段階からなるプログラムを、英語の基本的な音素となる42音に対して実施した。42音は1回につき7~9個に分けて指導した。42音の音素は、1文字の音素24個と2文字の音素18個で構成された。その結果、事前事後に有意な差はなかったものの音素のリスニングについて向上が見られ、1文字の音素の方が2文字の音素より定着していたと報告している。入山・加藤・渡辺・山下(2019)は、中学1年生と2年生22名に、夏休み3日間(80分×2コマ×3日)の補充学習として「ジョ

リーフォニックス」を用いた42音の指導を実施した。指導前後の聞き取りテストを行い、指導効果があったことを確認した。また、10名に対して行った8ヶ月後の追跡調査でも、1文字1音については学習内容の維持が認められた。一方、2文字で1音を表すもの (ie, ee, sh, th 等) については維持が見られなかったことから、これらは継続的な指導が必要であるとされている。

これらの実践事例を見ると、文部科学省検定済教科書ではなく、松香 (1988a, 1988b, 2008) のテキストや、それらをもとにした自作テキストを活用して実践が行われてきたこと、また、近年は、英国の「ジョリーフォニックス」が広く知られるようになり、「ジョリーフォニックス」を活用した実践が多いことがわかる。この点が、「中学校でのフォニックス指導は、英語科教員の自由裁量であり、その実施状況にもばらつきがある」(東, 2006, p. 107) とされる所以ではないだろうか。Takeda (2005) は、中学校の年間指導計画は教科書の内容に基づいているため、それ以外の教材を導入してフォニックスの指導を行うことは時間的に難しいと述べている。ということは、文部科学省検定済教科書 (以下教科書) にきちんと位置付けていけばよいということになる。では、教科書にフォニックスに関する内容はどのように位置付けられているのであろうか。

5 これまでの中学校の教科書におけるフォニックスの取り扱い

林 (2013) は、2012年度版の教科書6社のうち、COLUMBUS 21 English Course 1 (光村図書) を除く5社が入門期にフォニックス指導を取り扱っているとしている。取り扱いの内容はほとんどが1文字1子音・母音であった。その中で、NEW HORIZON English Course 1 (東京書籍) は、「eのついた母音」と2文字で表す母音を取り扱っているという。しかし、取り扱いは半ページにしか及ばず、そこで提示されているのはほんの12単語である。「2文字子音」に関してはどの教科書でも扱われていないと述べている。

Shiobara (2019) は、2012年度版と思われる5社の教科書と2016年度版と思われる1社の教科書を調査した。その結果、フォニックスに関する内容はほとんど含まれておらず、単語はとても早い段階で導入されているとしている。また、すべてのアルファベットの文字は一度に紹介され、音素と文字素の関係を徐々に学ぶ機会は与えられていないという。2016年度版のTOTAL ENGLISH 1 (学校図書) は、1ページだけフォニックスの内容を取り扱っておりBlendingも取り扱っているが、たくさんの例の紹介や復習ページ等のサポートはないという。この調査から、Shiobara (2019) は、これらの教科書では、「読むこと」と「語彙」を同時に教えており、1つ1つ積み上げる形での系統的なフォニックス指導は行われていないと結論付けている。そして、早い段階で時間をかけて42の基本の音を系統的に指導していくことは、出合ったことのない単語の綴りを読み解く助けになるため、生徒が教師に頼らず読めるようになる最も効果的な方法だとしている。

尾上 (2016) は、中学校英語教科書においてフォニックスを紹介するページはあるが、体系的に指導を行えるようなものではないと述べている。例えば、2016年度版のNEW HORIZON English Course 1 (東京書籍) では、「Unit 0 アルファベット」で「The Phonics Chant」を用いてAからZの順に英単語を読むように促す箇所がある。発音と綴りの関係に関しては、巻末の資料編「英語の音とつづり」(pp. 148-149) の、「1 基本的な発音を覚えよう」でAからZまでの文字と発音記号、発音の仕方を一覧で示し、「2 異なる

る発音のしかたを覚えよう」で母音字 a, e, i, o, u と子音字 c, g が基本的な発音とは違った発音になることを紹介し、「3 基本的な ルールを覚えよう」では、「e のついた母音 (Silent e)」の規則を取り上げている。一方、2 年生、3 年生で使用する NEW HORIZON English Course 2 と NEW HORIZON English Course 3 では、フォニックスおよび発音と綴りの関係に関してのページはないとしている。

入山・加藤・渡辺・山下 (2019) は、中学 1 年生用の教科書の内容はすでに単語、文レベルからスタートしており、どの文字をどのように発音するかという丁寧な指導は一般的になされていないとし、従来型の繰り返し読んで書いて暗記する学習法では効果が出せないと述べている。

6 2021年度版中学校教科書におけるフォニックスの取り扱い

中学校では、2021年度から新しく改訂された教科書を使用している。前述したように、小学校では、2020年度から新学習指導要領のもと、「活字体の大文字と小文字を読んだり書いたりすること」や、「音声と文字の関係」を指導している。それを受けて、中学校の教科書の「発音と綴りを関連付けて指導すること」はどのような内容になっているのかを調査した。調査したのは、全部で6社ある中学校教科書の生徒用3学年分、合計18冊の紙面である。それらは、「NEW HORIZON English Course 1, 2, 3」(東京書籍)、「Sunshine English Course 1, 2, 3」(開隆堂)、「NEW CROWN English Series 1, 2, 3」(三省堂)、「Here We Go! English Course 1, 2, 3」(光村図書)、「ONE WORLD English Course 1, 2, 3」(教育出版)、「BLUE SKY English Course 1, 2, 3」(啓林館)である。

6.1 NEW HORIZON English Course (東京書籍)

まず、NEW HORIZON English Course 1 である。「英語の音と文字」(pp. 6-7) では、1 ページにアルファベット26文字の大文字と小文字が、その文字を含む単語の綴りと絵とともに示されている。5つの母音や c, g には、2通りの音それぞれが含まれる単語が並べて記されている。また、c+a+t=cat といった音の足し算 (Blending) や、母音字と c, g の2通りの読み方、「2文字子音」cheese, elephant, ship, bath, mother, whale, clock, sing が紹介されている。そして、単語の始めの音を聞き取る活動が位置付けられている。この活動には、cat, bat, hat や pen, ten, yen などの単語が使用されているため、Rhyming (韻をふむ) の指導が可能である。また、Unit 1 から5までのページの右下には、1文字の子音・母音や、「2文字子音」を聞き取って文字を書く活動がある。ここまでの学習内容の復習にあたるページである。次に、「単語のつづりと発音①」(p. 28) では、song や strong は s-ong や str-ong, bad や sad は b-ad や s-ad と、ong や ad といった塊でとらえると知らない単語でも読み方を推測しやすくなることを紹介している。また、歌やマザーグースをもとに Rhyming (韻をふむ) を紹介している。教科書に説明はないが、song や strong を s-ong や str-ong のように分けることは、Onset-Rime と呼ばれ、英語圏の子どもたちがフォニックスを学ぶ以前に音韻認識を育てるために行う活動である。Onset とは最初の母音の前に来る子音のことで、Rime とは語の最初の母音とそのあとに続くすべての音のことである。続いて、「単語の綴りと発音②」(p. 85) には、p. 7に登場した「2文字子音」について「2文字1音 (ダイグラフ)」ということばを使って振り返っ

ている。また、desk の sk を例に出して「子音連結」ということばを使って「連続子音」を紹介している。その後、black, sleep, April, sister, apple, cold の単語を使って発音の練習するようになっている。巻末の資料編 (pp. 146-147) では、見開きの 2 ページに、1 文字で表す音や「2 文字 1 音 (ダイグラフ)」で表される 29 音を、発音記号やその音を含む単語の絵と綴り、発音の仕方の説明とともに紹介している。「2 文字 1 音 (ダイグラフ)」としては、ck, ph, th [2 通り], ch, wh, ng, sh が登場している。同じく巻末の資料編 (p. 148) では、5 つの母音字は名称通りの読み方で発音されることがあること、子音字 c, g は後ろに e, i, y がくるとそれぞれ s, j と同じ音で発音されることがあることを説明している。また、ルール通りには読めない単語として、are, is, he, you など 44 個の単語の例を出し、単語ごとに覚え何度も発音練習することを促している。これは前述したとおり、英国でいう Tricky Words, アメリカでいう Sight Words のことである。

NEW HORIZON English Course 2 及び 3 には、フォニックスの内容に関する記述はない。NEW HORIZON English Course (東京書籍) では、全体として、絵とともにわかりやすくフォニックスのルールが説明されている。Tricky Words について触れているのはこの教科書だけである。しかし、2 文字の母音字で表す音についての記述はない。

6.2 Sunshine English Course (開隆堂)

まずは、Sunshine English Course 1 である。「アルファベットの形と音」(pp. 1-2) では、2 つ以上の音がある子音字 c, g, s, x と母音字 a, e, i, o, u を紹介している。また、b+a+g=bag のように音の足し算 (Blending) を紹介している。「Program 0 アルファベットを確かめよう」(pp. 16-17) では、見開きの 2 ページに、アルファベット 26 文字の大文字と小文字が、その文字を含む単語の綴りと絵とともに示されている。また、5 つの母音や c, g には、2 通りの音それぞれが含まれる単語が並べて記されている。「つづり字と発音」(pp. 18-19) では、ox に f や v を付けて fox や box, ear に h や cl を付けて hear や clear と読む活動がある。また、日本語と違う音に注意して単語を読む活動に r, l, f, v とともに、「2 文字子音」の有声音の th と無声音の th が登場している。ここまでが、小学校の学習内容の復習にあたるページである。次に、「発音クリニック」(p. 77) では a の 4 通りの音, u の 2 通りの音, o の 5 通りの音を、「発音クリニック」(p. 88) では e と i の 2 通り音を紹介している。巻末資料「英語のつづり字と発音」(p. 139) では、2 文字で 1 音の母音字を、発音記号や単語の例とともに表に示している。_a_e, _e_e, _i_e, _o_e, _u_e と表示されている 5 つは「e のついた母音 (Silent e)」のことである。また、ea, ee, ai, au, ay, oa, oo, ou, ow を示し、ea は 3 通り、ai, oo, ou, ow は 2 通りの音を示している。そして、同じ綴りと同じ発音をもつ語に気付いたら単語補充欄に書くように促している。

次は、Sunshine English Course 2 である。「発音クリニック」(p. 77) では、ea の 3 通りの音, ou の 4 通りの音, oo の 2 通りの音を紹介している。巻末資料「英語のつづり字と発音」(p. 133) では、Sunshine English Course 1 の巻末資料と同じ表に、一文字の母音字の 2 通りの発音と、ey の 2 通りの発音が新しく加わった。

Sunshine English Course 3 では、巻末資料「英語のつづり字と発音」(pp. 123-124) に、Sunshine English Course 2 の巻末資料と同じ表が掲載されており、当てはまる単語の例の数が増えた。Sunshine English Course 1, 2, 3 では、本文中に出てくる単語に対応して、

多くのページの下の部分に、発音に注意すべき単語を紹介している。その中に、Sunshine English Course 1 では fr, br などの「連続子音」が、2 では ar などの「r のついた母音」や cr, pr などの「連続子音」が、3 では air, or, ir, などの「r のついた母音」や pr, cl, pl, fl, sk, tr などの「連続子音」、gh などの「2 文字子音」が登場する。さらに、sign, bomb, right などの発音しない文字も登場する。

Sunshine English Course (開隆堂) は、巻末資料において、1 文字または 2 文字で表す母音の音の紹介がとて充実している。一方、1 文字や 2 文字以上で表す子音についての掲載は巻末資料にはない。

6.3 NEW CROWN English Series (三省堂)

まず、NEW CROWN English Series 1 である。「英語の文字と音」(pp. 8-9)では、見開きの 2 ページに、アルファベット 26 文字の大文字と小文字が 4 線に書かれ、その文字を含む単語の綴りと絵とともに示されている。5 つの母音や c, g には、2 通りの音それぞれが含まれる単語が並べて記されている。また、3 つの単語を聞いて共通する文字を書くという活動がある。ここまでが、小学校の学習内容の復習にあたるページである。NEW CROWN English Series 1 では、教科書のはじめのページや巻末だけでなく、以下のように、途中のページにも発音と綴りの関係に関する内容がある。それらは、単語を聞いて初めの文字を選ぶ活動 (p. 20), th の有声音と無声音を発音したり同じ音を選んだりする活動 (p. 32), a の 2 通りの音を含む単語をそれぞれ選ぶ活動 (p. 52), e と i のそれぞれ 2 通りの音を含む単語を区別する活動 (p. 56), o と u のそれぞれ 2 通りの音を含む単語を線で結ぶ活動 (p. 60), c と g にはそれぞれ 2 通りの音があることに気付く活動 (p. 62), cut/cute, not/note を発音してルールに気付く活動 (p. 92), 子音字が重なると 1 つの子音字しか読まずその前の母音は短母音になるというルールに気付く活動 (p. 122), about, today, science, nature を見て、母音字が弱形の場合その母音字はあいまいな発音になるというルールに気付く活動 (p. 136) である。cut/cute, not/note を発音してルールに気付く活動 (p. 92) は、「e のついた母音 (Silent e)」に気付かせる活動であるが、すでに単語を発音できることが前提になっている。さらに巻末 (pp. 付録 5-6) には、1 文字の子音字の発音 b, c [2 通り], p, d, p, f, g [2 通り], h, j, k, l, m, n, p, r, s, t, v, w, z, y [3 通り], 「2 文字子音」ch, ck, ng [2 通り], ph, qu, sh, tch, th [2 通り] wh, tion, gh [2 通り] の発音、母音字の 2 通りの発音が表で示され、その後、「e のついた母音 (Silent e)」について「Magic e」ということばを使つての説明、子音字が重なる前の母音字は短母音であること、弱い強勢のある音節における母音字の発音の説明が記されている。また、Tongue Twister (早口言葉) が紹介されており、Rhyming (韻をふむ) の指導が可能である。

次は、NEW CROWN English Series 2 である。NEW CROWN English Series 1 同様、途中のページにも発音と綴りの関係に関する内容がある。それらは、phone, check などの「2 文字子音」を同じ発音である face, key と結び付ける活動 (p. 16), plan, black, present, bridge, track, dram などの「連続子音」に気付く活動 (p. 52), spring, street, three などの「連続子音」を発音する活動 (p. 60), mail, sea, coat などの「礼儀正しい母音」に気付く活動 (p. 82), 「2 文字母音」ou, ow の 2 通りの読み方に気付く活動 (p. 100), 「r

のついた母音」ar, orの音の特徴に気付く活動 (p. 114) である。さらに巻末 (pp. 付録 11-12) には, NEW CROWN English Series 1にも記載された子音字の発音p, c [2通り], p, d, p, f, g [2通り], h, j, k, l, m, n, p, r, s, t, v, w, z, y [3通り], 「2文字子音」ch, ck, ng [2通り], ph, qu, sh, tch, th [2通り] wh, tion, gh [2通り], 母音字の2通りの発音に加え, 同じ子音字が重なった時の発音 (bb, dd, ff, ll, mm, nn, pp, rr, ss, tt), 2文字の母音字が表す発音 ea [2通り], ee, ai, ay, oi, au, aw, ou, ow [2通り], oo [2通り], oy, 母音字+rの発音 ar, er, ir, or, ur, air, ear が表で示された。また, Tongue Twister (早口言葉) が紹介されており, Rhyming (韻をふむ) や Alliteration (初めの音が同じ) の指導が可能である。Rhyming (韻をふむ) や Alliteration (初めの音が同じ) は, 前述した Onset-Rime 同様, 英語圏の子どもたちがフォニックスを学ぶ以前に音韻認識を育てるために行う活動である。

続いて, NEW CROWN English Series 3である。NEW CROWN English Series 1及び2同様, 途中のページにも発音と綴りを関係に関する内容がある。それらは, knee, island, Wednesday, climbを見て発音しない文字に気付く活動 (p. 16), lock, rock, fold, holdを聞き取る活動 (p. 28), music, magic, seat, sheetを聞き取る活動 (p. 46), correct, collect, hat, fat, berry, very, ear, yearを聞き取る活動 (p. 80), cold, called, coat, caught, hole, hall, boat, boughtを聞き取る活動 (p. 98) である。NEW CROWN English Series 3に発音と綴りの関係に関する巻末付録はない。

NEW CROWN English Series (三省堂) は, 巻末付録における発音と綴りの関係をまとめた表が充実している。また, 巻末だけでなく途中のページに, 発音と綴りを関係に気付かせる活動が位置付けられているところに特徴がある。

6.4 Here We Go! English Course (光村図書)

まずは, Here We Go! English Course 1である。「英語の音とつづりを確かめよう」(pp. 18-19) では, 見開きの2ページに, アルファベット26文字の大文字と小文字が, その文字を含む単語の綴りと絵とともに示されている。また, 「先生の示すアルファベットの音で始まる単語を言いましょう」「英語を聞いて, それぞれの単語の初めの文字を書きましよう」という活動がある。その後, 単語の始めの音を聞いて子音字を選んだり書いたりする活動 (p. 20), 単語を聞いて母音字を選んだり書いたりする活動 (p. 21), s-ad, h-at, c-apなど20の例を示し, 単語を読んで絵を探したり初めの文字と後の2文字を入れ替えて別の単語を作ったりする活動 (pp. 22-23) が続く。これは Onset-Rime に関する活動であるといえる。さらに, 母音字の異なる読み方や「2文字子音」sh, ch, th, thに関する活動 (p. 24), 3つの Tongue Twisters (p. 25) が掲載されている。似ている発音の練習 (red, lorry 等) や Alliteration (はじめの音が同じ, big, black, bear 等) への気付きへつなげることができる。ここまでは, 小学校の学習内容の復習ページである。このほかに, 発音と綴りの関係に関する内容は位置付けられていない。

次は, Here We Go! English Course 2である。巻末付録の音声のまとめ (pp. 150-151) に, 子音字の発音 (p, b, c, k, q, g, t, d, s, z, f, v, h, w, m, n, l, r, j, y, x), c と g の2種類の発音, y の3種類の発音, 母音字の2種類の発音, 2文字 (または3文字) の子音字の発音 (ch, sh, th [2通り], pf, wh, ck, ng, tch), 2文字の母音字の発音 (ai, ay, ea, ee, oa,

ow [2通り], oo [2通り], ue, ui)を一覧表にまとめている。子音字の発音については、有声音と無声音のペアを意識して配列している。

Here We Go! English Course 3には、巻末付録の音声のまとめ (pp. 150-151) に、同じ発音をする母音字の綴り (iとieとy, aとaiとayとea, oiとoy, ouとow, oとoaとow, eとeaとee, auとawとou, ueとuiとoo), 母音字+rの発音 (ar, er, ir, ur, or, air, ear [2通り]), 母音字+reの発音 (are, ere, ire, ure), 2文字 (または3文字)の子音字の発音 (ch [2通り], dg, sh, th [2通り], ph, wh, qu, ck, ng, gh, tch), 発音されない文字 (k, w, t, g, gh, b) が表にまとめられている。

Here We Go! English Course (光村図書) は、1では小学校の復習ページ、2及び3においては巻末付録の掲載しかない。ただし、1, 2, 3ともに、本文中に出てくる単語に対応して、各ページの右の部分に説明を加え、発音に注意を促している。

6.5 ONE WORLD English Course (教育出版)

まず、ONE WORLD English Course 1である。「音声から文字へ」(p. 8)には、音声を聞いて母音字を選ぶ活動や、音声を聞いて単語に丸を付ける活動がある。音声を聞いて単語に丸を付ける活動にはfish, dish, three, tree, pet, vetといった単語が使用されており、聞き取りが難しい音の練習ができるとともに、Rhyming (韻をふむ)に触れることも可能である。これらは、小学校の学習内容の復習ページである。ONE WORLD English Course 1は、大文字・小文字の一覧表によりアルファベットの音読みを示すページがない唯一の教科書である。巻末資料「つづりと発音」には、母音字の2通りの発音、yの3通りの発音、子音字を表す文字の発音 (b, d, f, h, j, k, l, m, n, p, r, s, t, v, w, z), cとgの2通りの発音が表にまとめられている。

次は、ONE WORLD English Course 2である。巻末資料「つづりと発音」には、組み合わせて1つの音になる母音字の発音を3つに分けてまとめている。1つ目は2つの母音字の前の字だけをアルファベット読みするものai, ea, ee, oa, 2つめは2つの母音字の組み合わせが決まった音を表すものea, oi, au, oo [2通り], ou, 3つめは母音字と子音字の組み合わせが決まった音を表すものay, aw, ow [2通り], oyである。前述した松香(2008)の分類に対応させると、1つ目は「礼儀正しい母音」、2つ目と3つ目は「2文字母音」である。次に、「rのついた母音」ar, er, ir, or, ur, air, ear, 組み合わせて1つの音になる子音字ch, ck, ng [2通り], ph, qu, sh, tch, th [2通り], wh, tion, gh [無音も含め2通り], 同じ子音字を重ねた時の発音としてbb, cc, dd, ff, gg, ll, mm, nn, pp, rr, ss, ttを表にまとめている。

ONE WORLD English Course 3には、巻末資料「つづりと発音」は掲載されていない。ONE WORLD English Course (教育出版) は、1, 2, 3において、本文中に出てくる単語に対応して、いくつかのページの左下の部分に、発音記号と、その発音が含まれるいくつかの単語を示している。また、1, 2における巻末資料の発音と綴りの関係をまとめた表が充実している。

6.6 BLUE SKY English Course (啓林館)

まず、BLUE SKY English Course 1である。「英語の文字が表す音を聞こう」(pp. 14-

15) では、見開きの2ページに、活字体の大文字と小文字が4線に書かれ、その文字を含む単語の綴りと絵とともに紹介されている。5つの母音や c, g には、2通りの音それぞれが含まれる単語が並べて記されている。「英語の文字が表す音に慣れよう」(pp. 16-17) では、英語を聞いて同じ音で始まるものの絵を選ぶ活動、単語を聞いて共通して入る文字を書く活動、母音字に気を付けて単語を発音する活動、発音の似た単語を聞き取る活動、母音の2通りの読み方に関する活動がある。ここまでは、小学校における学習内容の復習ページである。巻末の「英語のつづりと発音」(pp. 126-127) では、見開きの2ページに、アルファベット26文字を、発音記号やその音を含む単語の絵と綴り、発音の仕方の説明とともに紹介している。また、c, g, y の2通りの読み方や母音字の2通りの読み方を紹介している。

次は、BLUE SKY English Course 2である。巻末の「英語のつづりと発音」(pp. 130-131) には、母音字の2通りの発音、母音字2つの発音 ai, ay, au, aw, ea [2通り], ee, oi, oy, oo [2通り], ou, ow [2通り], 母音字+rの発音 ar, er, ir, ur, or, air, ear, 子音字1つの発音 b, p, d, t, v, f, j, g [2通り], k, c [2通り], s, z, h, l, m, n, r, w, x と、y の3通りの発音、「連続子音」の発音 ch, tch, ck, ng [2通り], qu, sh, th [2通り], wh, ph, gh [無音を含む2通り] が紹介されている。

BLUE SKY English Course 3には、「英語のつづりと発音」(pp. 112-113) に、BLUE SKY English Course 2の巻末と同じ表が掲載されている。BLUE SKY English Course (啓林館) は、1, 2, 3において、本文中に出てくる単語に対応して、いくつかのページの下の部分に、発音記号と、その発音が含まれるいくつかの単語を示し、発音への注意を促している。また、巻末資料の発音と綴りの関係をまとめた表が充実している。

7 考察

調査した6社の教科書で扱われているフォニックスに関する内容をまとめたのが表3である。

表3 各教科書で扱われているフォニックスに関する内容

	NEW HORIZON	Sunshine	NEW CROWN	Here We Go!	ONE WORLD	BLUE SKY
1文字1音の一覧	○	○	○	○		○
音の足し算 (Blending)	○	○				
yの3種類の発音			○	○	○	○
5つの母音字の2通りの発音	○	○	○	○	○	○
c, gの2通りの発音	○	○	○	○	○	○
組み合わせて1音になる母音字		ai [2], au, ay, ea [3], ee, oo [2], ou [3], ow [2], oa, ey [2]	ai, au, ay, ea [2], ee, oo [2], ou, ow [2], oi, oy, aw	ai, au, ay, ea, ee, oo [2], ou, ow [2], oa, oi, oy, aw, ue, ui, ie	ai, au, ay, ea [2], ee, oo [2], ou, ow [2], oa, oi, oy, aw	ai, au, ay, ea [2], ee, oo [2], ou, ow [2], oa, oi, oy, aw

組み合わせで1音になる子音字	th [2], ck, ch, ph, sh, wh, ng	th [2], gh	th [2], ck, ch, ph, sh, wh, ng [2], gh [2], qu, tch, tion	th [2], ck, ch, ph, sh, wh, ng, tch	th [2], ck, ch, ph, sh, wh, ng [2], gh [2], qu, tch, tion	th [2], ck, ch, ph, sh, wh, ng [2], gh [2], qu, tch
連続子音	bl, pl, pr, sl, st, ld	cl, cr, fl, fr, sk, sl, sp, st, dr, sc)	bl, br, pl, pr, tr, dr, thr, spr, str			
r のついた母音		ar, or, ir, air)	ar, or, er, ur, ir, air, ear	ar, or, er, ur, ir, air, ear, are, ere, ire, ure	ar, or, er, ur, ir, air, ear	ar, or, er, ur, ir, air, ear
Tricky words	○					
発音しない文字		k, g, m, gh	b, d, k, s	b, g, k, t, w, gh		
あいまいな発音になる場合			○			
同じ子音字が重なった場合			bb, dd, ff, ll, mm, nn, pp, rr, ss, tt		bb, cc, dd, ff, gg, ll, mm, nn, pp, rr, ss, tt	

以上のように、2021年度版の教科書は、以前の教科書よりフォニックスに関する記述が増えている。そして、どの教科書も1年生用のはじめに、小学校における学習内容の復習ページを設けている。しかしその後は、フォニックスのルールに気付かせる活動や定着させる活動を設定しているものは少なく、ルールの説明に留めているもの、巻末にまとめの表を掲載しているもの、本文中の単語に合わせて注意すべき綴りの発音を示しているもの等、形態は様々である。また、取り扱っているフォニックスのルールの種類にもばらつきがある。前述したように、文部科学省(2018b)には、「発音と綴りとを関連付けて指導すること」(p. 123)について具体的な指導内容や手順等は示されていないため、それらについては教科書会社の判断によるのであろう。また、英語の発音と綴りの対応関係については、「ある程度単語の綴りとその発音になじんだところで、単純なものから徐々に指導していくこととする」(p. 92)と書かれているため、どの教科書もすでに単語や文の読み書きが始まった後に、指導が行われる構成になっている。これでは、ある程度単語の綴りと発音になじむまでは、単語の綴りの丸暗記が強いられることになる。また、発音と綴りの関係の指導は、読み書きのためというより、英語らしい発音のために行うような構成になっているようにも感じられる。つまり、どの教科書もフォニックスの基本的なルールを早い段階で系統的に学習できる構成にはなっていない。

フォニックスは、発音と綴りの関係を教えることで、単語の綴りの丸覚えを避けるものである。前述したように、Synthetic Phonicsは、単語の習得に関係なく文字と音声の対応を指導し、一つの文字を指導したらすぐに既習の文字と組み合わせで読み書きができる

ようにする方法であり (湯澤・山下, 2015), 英語を母語としない学習者にもやさしい方法である (山下, 2015)。Takeda (2005) や Shiobara (2019) は, フォニックスは, 読み書き指導のはじめの時期に集中的に1つずつルールを指導するのがよいとしている。つまり, 中学生が単語の綴りの丸暗記ではなく, 読み書きがスムーズにできるようになるための一助として, 中学入学後すぐに, 小学校における音声と文字との関連についての復習を行い, それに続けて, 毎回の授業のはじめの10分程度を使って, 基本の42音を1つ1つ系統的に指導していくことは大切であるといえる。教科書もそのような構成になっていれば教師間の指導のばらつきや負担は軽減されるであろう。

謝辞

本研究は JSPS 科研費19K00767の助成を受けたものである。ここに感謝の意を表する。

引用文献

- 入山満恵子・加藤茂夫・渡辺さくら・山下桂世子 (2019). 「日本語を母語とする中学生への効果的な英語学習法の検討 -統合的フォニックスの活用-」『LD 研究』第28巻第2号, 262-272.
- 長田恵理・赤井晴子 (2019). 「文字が示す音の読み方指導の実践」『國學院大學人間開発学研究』第10号, 53-68.
- 小田真実・湯澤正通 (2019). 「中学生に対するフォニックス指導の有効性の検討」『日本教育心理学会第61回総会発表論文集』468.
- 尾上利美 (2016). 「小学校英語教育へのフォニックス導入に関する一考察」『和歌山大学教育学部紀要 人文科学』第67集, 75-80.
- 小原弥生 (2016). 「日本人英語学習者における Phonic Generalizations の応用性」『尚美学園大学総合政策論集』22号, 167-184.
- 檜本洋子 (2017). 「小学校外国語活動における効果的な児童のリテラシー指導: シンセティックフォニックスを導入して」『言語教師教育: JACET 教育問題研究会会誌』4(1), 59-68.
- 檜本洋子 (2020). 「小学校教員養成課程学生に対するフォニックス指導の効果 -小学校教員に必要な読み書き指導の知識・技能の検証-」『小学校英語教育学会誌』20巻, 164-178.
- 加藤茂夫・入山満恵子・山下桂世子・渡辺さくら (2020). 「ジョリーフォニックス指導効果検証の試み -新潟県南魚沼市の取り組みから-」『小学校英語教育学会誌』20, 272-287.
- 木澤利英子 (2018). 「シンセティック・フォニックス指導とその効果 -児童の非単語反復及びデコーディングに着目して-」『関東甲信越英語教育学会誌』32, 71-84.
- 君塚淳一・西尾直美・田中智子 (2010). 「小学校英語における課題を考える -フォニックスの効用と課題(1)-」『茨城大学教育実践研究』29, 137-147.
- 渋谷玉輝 (2011). 「早期英語教育におけるフォニックス導入の可能性」『言語と文明』9,

113-123.

- ジョリーラーニング社（山下桂世子監訳）（2017）.『はじめてのジョリーフォニックス
-ティーチャーズブック-』東京書籍.
- 中内田陽子・大嶋秀樹（2017）.「効果的なフォニックス指導の一考察 -小学校英語にお
けるフォニックスの必要性-」『滋賀大学教育学部紀要』第67号, 21-31.
- 野呂忠司（2004）.「小学校の『英語活動』における文字指導の意義と必要性 -小学
校と中学校における文字指導の連携をめざして-」『愛知教育大学教育実践総合セン
ター紀要』第7号, 151-157.
- ハイルマン, A. W.・松香洋子（監訳）（1981）.『フォニックス指導の実際』玉川大学出版
部.
- 林恵利（2013）.「小学校と中学校の連携を視野に入れた中学1年入門期における英語フォ
ニックス指導」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』Vol. 10, 41-53.
- 東仁美（2006）.「音声中心のフォニックス指導」『聖学院大学論叢』18巻3号, 105-118.
- 平野美沙子（2016）.「小学校英語の課題 -フォニックスの導入に向けて-」『環境と経営』
第22巻第1号, 55-66.
- ベネッセ教育総合研究所（2016）.「中高の英語指導に関する実態調査2015」
<http://berd.benesse.jp/global/research/detail.php?id=4776>
- 北條礼子・大田亜紀（2009）.「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習
プログラムの構築」『教育実践研究』第19集, 19-26.
- 北條礼子・君佳子（2010）.「文字指導を中心とした小学校英語活動の試み」『教育実践研
究』第20集, 19-26.
- 北條礼子・君佳子（2011）.「小学校英語活動における文字指導の試み」『教育実践研究』
第21集, 1-8.
- 北條礼子・矢嶋隆之・高橋沙矢香（2012）.「小学校外国語活動における文字導入の試み」
『教育実践研究』第22集, 11-20.
- 堀江美智代・園元恭子（2017）.「中学校における英語によるフォニックス指導の実際(1)
-フォニックスルール導入の工夫とその成果-」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』
第47号, 67-84.
- 松香洋子（2008）.『フォニックスってなんですか?』mpi.
- 松香洋子（1988a）.『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 1』mpi.
- 松香洋子（1988b）.『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 2』mpi.
- 村上加代子（2015）.「英語の学習初期における読み書き指導の在り方の検討：基礎的な力
としてのデコーディングと音韻意識スキル獲得の必要性について」『神戸山手短期大
学紀要』58号, 57-73.
- 文部科学省（2008）.『中学校学習指導要領解説外国語編』開隆堂出版.
- 文部科学省（2018a）.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編』
開隆堂出版.
- 文部科学省（2018b）.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編』開隆堂出版.
- 矢野淳（2018）.「英語科教員免許取得希望者へのフォニックス指導」『静岡大学教育学部
研究報告（教科教育学篇）』第49号, 45-56.

- 山下桂世子 (2015). 「多感覚を用いたシンセティック・フォニックスと特別支援教育」
<https://kayokoyamashita.com/uploads/9152a68ecc74bc5474f90f67b6fd70d6.pdf>
- 山本幸一 (2019). 「小学校『外国語活動』・『外国語』と文字指導 -教職課程での取り組み-」
『Language & literature (Japan)』 28, 1-25.
- 湯澤美紀・山下桂世子 (2015). 「英国における Synthetic Phonics の取組」『ノートルダム清心女子大学紀要』 39, 94-106.
- 吉田晴世・鄭京淑 (2012). 「教員養成課程におけるフォニックス指導の必要性」『大阪教育大学教科教育学論集』 11, 15-23.
- Crystal, D. (1990). *The English Language*. Penguin Books.
- Katusic, S. K., Colligan, R. C., Barbaresi, W. J., Schaid, D. J., & Jacobsen, S. J. (2001). Incidence of reading disability in a population-based birth cohort, 1976-1982, Rochester, Minn. *Mayo Clinic Proceedings*, 76, 1081-1092.
- Shiobara, F. (2019). When and how to teach reading to beginner learners of English: A comparison of ten Ministry of Education approved introductory English textbooks. *Journal of the Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University No. 8*, 15-29.
- Takeda, C. (2005). The application of phonics teaching in junior high school English classes in Japan. *JACET-CSCRB*, 2, 127-137.
- Takeda, C. (2006). The application of phonics to the teaching of reading and writing in junior high school English classes in Japan, *JACET-CSCRB*, 3, 99-111.
- 調査した中学校外国語科用文部科学省検定済教科書 (いずれも2021年度版, 順不同)
- 「NEW HORIZON English Course 1, 2, 3」(東京書籍)
- 「Sunshine English Course 1, 2, 3」(開隆堂)
- 「NEW CROWN English Series 1, 2, 3」(三省堂)
- 「Here We Go! English Course 1, 2, 3」(光村図書)
- 「ONE WORLD English Course 1, 2, 3」(教育出版)
- 「BLUE SKY English Course 1, 2, 3」(啓林館)

Received : September, 26, 2021

Accepted : November, 2, 2021